



特別支援学校の学校間交流における相互理解の促進 に向けた情報共有シートの開発に関する試行的実践

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 細谷, 一博, 白府, 士孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00006098

特別支援学校の学校間交流における相互理解の促進に向けた 情報共有シートの開発に関する試行的実践

細谷 一博・白府 士孝*

北海道教育大学函館校障害児臨床教室

*北海道教育大学附属特別支援学校

A trial implementation for the development of the Information sharing sheet to promote mutual understanding of children in exchange between special schools

HOSOYA Kazuhiro and SHIRAFU Noritaka*

Department of Special Education, Hakodate Campus, Hokkaido University of Education

*School for Special Needs Education attached to Hokkaido University of Education

概 要

本研究は、特別支援学校小学部と小学校の学校間交流において、児童や交流活動に関する情報共有シートを開発し、その活用方法と課題を検討した。本研究では2種類の情報共有シート（情報交流シート、交流学習メモ）を開発し、試行的に活用を試みた。その結果、シートの様式やシートを活用することで、教師間の共通理解を図ることができ、さらには両校の目標や児童の様子を把握する上で有効なものであったことが示唆された。しかしながら、作成にかかる教師の負担や作成の時期等の課題も残った。本研究では、使用した情報共有シートが有効であることが示唆されたが、今後は他校との学校間交流でも活用し、検討を深めていく必要がある。

I 問題と目的

障害のある児童生徒の理解を深めるために欠かすことのできない教育として交流及び共同学習があげられる。交流及び共同学習は、障害者基本法の一部改正（2006）を受けて、その名称が変更になった。それに伴い、これまでの交流教育のねらいであった「社会性を育てる」や「人間関係の育

成」に加え「教科等のねらいの達成」が新たに加わり、これらの両側面を一体として捉えるものと示された（全国特別支援教育推進連盟，2007）。このような交流及び共同学習を展開する上で重要なものとして、交流及び共同学習に関係する教師間の連携があげられる。文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説総則編では、「交流及び共同学習の実施に当たっては、双方の学校同士が十分

に連絡を取り合い、指導計画に基づく内容や方法を事前に検討し、各学校や障害のある幼児児童生徒一人一人の実態に応じた様々な配慮を行うなどして、組織的に計画的、継続的な交流及び共同学習を実施することが大切である」と示されており、交流及び共同学習における教師間の情報共有の重要性を述べている。細谷・大庭（2001b）は、これまでの交流教育の流れについて概観する中で、交流の実施には、双方に焦点を当てる必要があり、参加している子どもの実態に合った交流教育の実現や教師間の連携の充実が必要であることを指摘している。さらに、久保山（2010）は、交流及び共同学習推進のための留意点を指摘する中で、教師同士の円滑なコミュニケーションが子ども同士の相互理解に与える影響は大きく、交流及び共同学習の豊かな展開につながると述べている。

しかしながら、交流及び共同学習の実施における教師間の情報共有について、細谷・張替・恵羅・大庭（1998）は、中学校特別支援学級における交流教育の実施と支援体制について検討した結果、交流目的や交流内容を教師や保護者が十分に把握できていない場合があることを指摘した。また、山本・佐藤（2008）は、交流教育の現状や課題を特別支援学級担任及び通常学級担任の両者から明らかにした結果、通常学級担任は、打合せや連絡の時間の確保に困難を感じているとともに、連絡や打合せの時間の必要性を感じていることを明らかにした。さらに吉田・佐久間（2008）は、意義のある交流教育の実施には担任同士の十分な連携などの環境整備が必要であると指摘している。宮脇・阿部（2009）は、交流及び共同学習における教師の工夫として、日々の子どもの姿や授業の目的や内容、それらに応じた手立てなど、関係する教師間で連絡を密にとる必要が不可欠である。また、その機会をどのように確保するかが大きな課題であると指摘している。

これまで、交流及び共同学習に関わる教師間の情報共有については、アンケートを用いて、参加している児童生徒の目標や活動の様子について検討してきた（細谷・大庭，2004；細谷・大庭，

2001a）。しかしながら、アンケートのみの情報交換になる危険性（細谷・大庭，2005）やアンケートを誰が準備し、どのように実施していくかという課題が新たに生じることになる（細谷・大庭，2010）ことが指摘されている。近年では、交流及び共同学習における教師間の連携強化に向けて、「交流学習カード」を用いた連携（寺島，2008）や「連携ノート」「連携チェックシート」等を用いた共通理解の方法（渡辺，2010）などが報告されている。しかしながら、情報共有の方法について、その様式はこれまであまり検討されてこなかった。

そこで本研究では、交流及び共同学習の対象となる児童双方のねらいと特別支援学校児童に関する情報交換に焦点を当て、特別支援学校の学校間交流における情報共有のためのシートの活用方法と課題を検討することを目的とする。

Ⅱ 方法

1. 学校間交流の対象校及び交流活動

本研究で対象とした学校は、F特別支援学校小学部（以下、特別支援学校と示す）とA小学校（以下、小学校と示す）である。特別支援学校は約15名の児童が在籍している。また、小学校は1学年2クラスの中規模校である。

なお、本研究で対象とした交流及び共同学習は2010年より実施した特別支援学校と小学校の2年間の学校間交流10回である。2010年は学校間交流初年度ということもあり、5年生を対象に各学級2回ずつ実施した。2011年は6年生各学級2回、5年生各学級1回の学校間交流を実施した。本交流活動におけるグループ編成について、特別支援学校1～2名に対して、小学校が3～5名で編成し、8グループを組織した。しかし、2011年の6年生は、昨年度よりも児童同士が触れ合うことができるよう、各グループの特別支援学校は1名とし、小学校は3～4名で配置した。5年生については、8グループで編成し、特別支援学校1～2名に対して、小学校が3～5名で編成した。

交流活動の流れを表1に示す。交流活動は20分間設定し、活動の前後に簡単な会を設けた。交流活動は、総合的な学習の時間（小学校）と自立活動（特別支援学校）に位置付けられ、活動内容は小学校の児童が考えて準備を行った。

表1 交流活動の流れ

時間	活動内容
10:45	体育館集合 はじめの会 はじめの挨拶 児童代表挨拶(小学校) グループ割
10:55	交流活動開始 各グループで活動
11:15	交流活動終了 体育館集合 おわりの会 感想・意見交換 児童代表挨拶(特別支援学校) おわりの挨拶

2. 情報共有シートの使用方法

本研究は児童に関するねらいや実態を教師間及び小学校児童と共有するため、「情報交流シート」「交流学習メモ」の2種類のシートを活用した。

1) 情報交流シート

情報交流シートは、特別支援学校側から児童に関する情報を小学校へ合計6回（各クラスの初回交流1週間前）提供した。小学校児童は、得られた情報を活用し、交流活動の準備を行った。情報交流シートの具体的な内容は「児童名」「学年」「好きな遊び」「好きなキャラクター」「好きな活動」「担任からのアドバイス」の6項目で構成した。実際に活用した情報交流シートを図1に示す。A児の場合、「好きな遊び」には、本を読むこと、お話をすること、ゲーム、追いかっこ、シャボン玉、「好きなキャラクター」は、シャチ（ぬいぐるみ）、「好きな活動」は虫取り、追いかっこ、お話をすることと記述があった。また、「担任からの一言アドバイス」には「お話が大好きで、みなさんと遊ぶのを楽しみにしています。たくさんお話を

しますが、文字を読んだり書いたりすることは苦手です。数字は5くらいまで数えられます。高いところが少し苦手で、階段はゆっくり上り下りします。ゲームのルールは簡単なものは分かりますが、少し難しいものでも一緒にすると楽しむことができると思います。また、次回よろしくお願ひします」との記述があり、本人の好きな事や苦手とすること、遊ぶ上での注意点など、具体的な記述があった。

名前	A 児	5年生
写真	好きな遊び 本を読むこと（自動車や電車の図鑑）／おはなしすること／ゲーム／追いかっこ／シャボン玉	
	好きなキャラクター シャチ（ぬいぐるみ）	
	好きな活動 虫取り／追いかっこ／お話をすること	
	一言アドバイス お話が大好きで、みなさんと遊ぶのを楽しみにしています。たくさんお話をしますが、文字を読んだり書いたりすることは苦手です。数字は5くらいまで数えられます。高いところが少し苦手で、階段はゆっくり上り下りします。ゲームのルールは簡単なものは分かりますが、少し難しいものでも一緒にすると楽しむことができると思います。また、次回よろしくお願ひします。	

図1 情報交流シート

2) 交流学習メモ

交流学習メモは、特別支援学校と小学校の交流活動に関する情報を1枚の用紙に集約し、両校のねらいや各グループのねらい、グループメンバーなどの情報を記載した。また、当日の流れや活動場所を記載することで、両校の教員が当日の流れを把握できるようにした。交流学習メモは、特別支援学校の交流担当者が中心に作成し、交流活動を開始する前に特別支援学校側と小学校側でそれぞれのねらいや各グループのめあて等を記述し、交流活動の数日前に両校の教員が目を通した。実際に活用した交流学習メモの様式を図2に示す。

3. 情報共有シートの評価

2年間の交流活動で使用した情報共有シートの有効性と課題を明らかにするために学校間交流に関与した教員を対象にアンケート調査を行った。

1) 対象

2年間の交流活動に関与した教員（特別支援学校9名、小学校5名）計14名を対象に実施した。

2) 方法

対象教員14名に調査用紙を直接手渡し、数日間

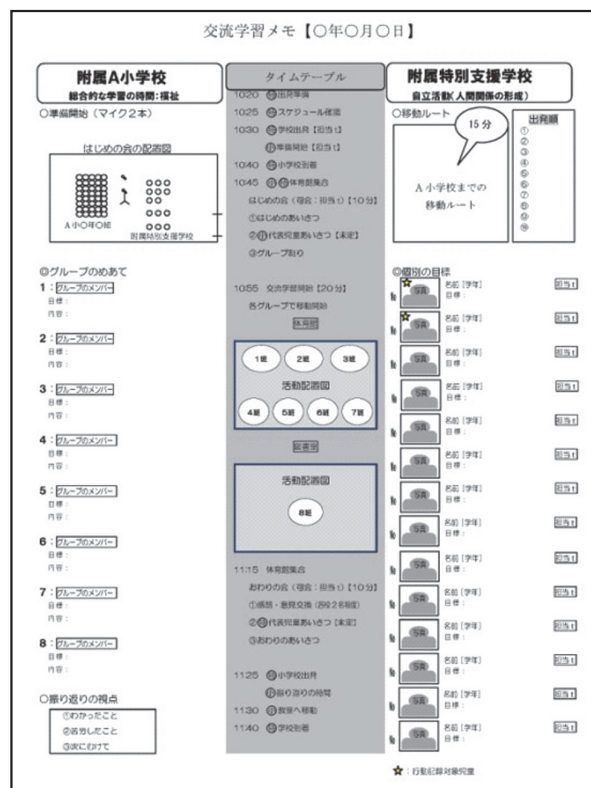


図2 交流学習メモ

の期間を設けて回収を行った。

3) 調査内容

調査項目は、1. 交流活動について、2. 交流学習メモについて、3. 情報交流シートについて、4. 今後の交流活動に関する意見の4つの柱で構成した。具体的な質問内容を表2に示す。回答は4段階評定法「とても思う、思う、思わない、全く思わない」を用いて実施し、「4. 今後の交流活動に関する意見」は自由記述とした。

IV 結果

1. 交流活動に関する項目

交流活動に関する項目の結果を図3に示す。計画的な実施[質問1]について、特別支援学校では、思う(7名)、とても思う(2名)と回答し、小学校では思う(4名)、とても思う(1名)と回答したことから、両校ともに交流活動を年間計画に位置付けたことで、計画的に実施できたと考えられる。また、今後の交流継続の可能性[質問3]についても特別支援学校では、思う

表2 情報共有シートの活用評価

1 交流活動について	1) 交流活動を年間計画に位置付けたことで計画的に実施できたと思いますか。 2) 交流回数は適切だったと思いますか。 3) 今後も継続して取り組むことが可能だと思いますか。 4) さらに、交流の学年の幅を広げていきたいと思いますか。 5) 交流学習により、両校の活動のねらいを効果的に達成することができたと思いますか。
2 交流学習メモについて	6) 両校の活動目標を共通理解して指導することができたと思いますか。 7) 交流相手校の教員と共通理解を図ることができたと思いますか。 8) 交流学習メモの作成は、負担なく作成できたと思いますか。 9) 交流学習メモの作成の様式は見やすかったと思いますか。 10) 交流学習メモの作成時期は適切だったと思いますか。
3 情報交流シートについて	11) 情報交流シートにより、教師間の情報交換がスムーズに行えたと思いますか。 12) 情報交流シートは、相手校の児童の様子を理解するのに有効だったと思いますか。 13) 情報交流シートは、事前指導に活かすことができたと思いますか。 14) 情報交流シートの様式は、見やすかったと思いますか。 15) 情報交流シートの作成時期は適切だったと思いますか。
4 今後の交流活動に関するご意見 (自由記述)	

(6名)、とても思う(3名)と回答し、小学校では思う(2名)、とても思う(3名)と全ての教員が前向きな回答であった。さらに、両校のねらいの達成[質問5]についても、特別支援学校では思う(9名)、小学校では思う(3名)、とても思う(2名)との回答が得られた。しかしながら、交流回数の適切性[質問2]について、1名から適切だとは思わないとの回答が得られた。この理由として「総合的な学習の時間の中で交流学習をするのであれば、学年1回ではなく、複数回実施できればより探究的な題材計画を立てられると思う」との記述がみられた。また、交流学年の拡大[質問4]については、数名の教師から思わないとの回答が得られた。この点について、特別支援学校からは「今後、本校の体育祭や文化祭に小学校4年生くらいから見学をする機会があると5・6年生の交流もスムーズに繋がっていくと思う」「はじめは行事見学などの交流から始められると、交流学習に対する意識のハードルは低くなると思う。具体的には4年生からというのはどうでしょう」との意見の記述がみられた。また、小

学校からは「発達段階から行くと、高学年とのかかわりがよいと思う」との記述がみられた。

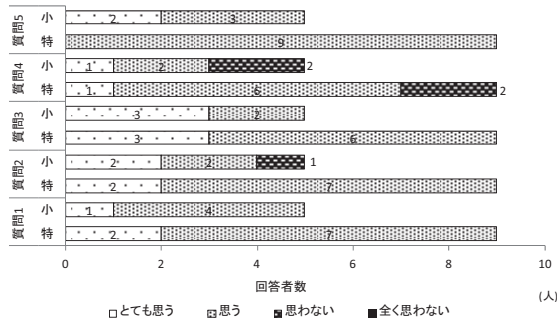


図3 交流活動に関する項目

2. 交流学习メモ

交流学习メモに関する項目の結果を図4に示す。目標の共通理解(質問6)について、特別支援学校は思う(8名)、とても思う(1名)と回答し、小学校では思う(3名)、とても思う(2名)であった。また、教員間の共通理解(質問7)でも、特別支援学校では思う(9名)、小学校では思う(2名)、とても思う(3名)であった。様式の見やすさ(質問9)では、特別支援学校では、思う(8名)、とても思う(1名)であり、小学校では思う(2名)、とても思う(3名)であった。しかし、作成における負担(質問8)について、特別支援学校と小学校で1名が負担ありと回答した。さらに、作成時期(質問10)についても、特別支援学校で1名が適切ではなかったと回答した。この点について、「作成が前日になることが多かったので、もう少し早めに作成できるように頑張ります」との記述がみられた。

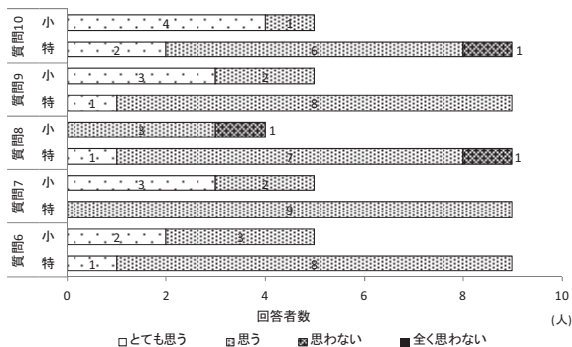


図4 交流学习メモに関する項目

3. 情報交流シート

情報交流シートに関する項目の結果を図5に示す。教師間の情報交換(質問11)について、特別支援学校は思う(9名)、小学校が思う(2名)、とても思う(3名)であった。また、相手校の様子を把握(質問12)では、特別支援学校では思う(7名)、とても思う(2名)であり、小学校では、思う(1名)、とても思う(4名)であった。さらに、様式の見やすさ(質問14)について、特別支援学校では思う(7名)、とても思う(2名)、小学校では思う(2名)、とても思う(3名)であり、作成時期の適切性(質問15)では、特別支援学校では思う(6名)、とても思う(3名)、小学校では思う(3名)、とても思う(2名)であった。しかしながら、事前指導への活用(質問13)では、特別支援学校において1名が活かすことができなかつたと回答した。

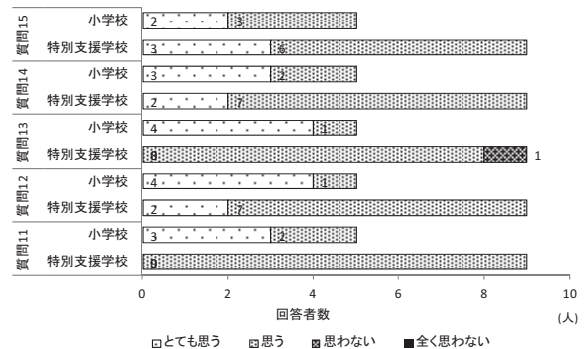


図5 情報交流シートに関する項目

V 考察

本研究では、交流及び共同学習の対象となる児童双方のねらいと特別支援学校児童に関する情報交換に焦点を当て、特別支援学校の学校間交流における情報共有のためのシートの活用方法と課題を検討することを目的とした。

その結果、図3にみられるように、交流活動を年間計画に入れることで、両校とも計画的に実施することができ、さらには、両校ともに交流活動の継続的な取り組みの必要性が示唆された。しかしながら、交流回数の増加や他学年における展開

については意識に差がみられ、今後の検討課題として残された。この点について、これまでの交流実施は、両校間の話し合いにより行われていた。しかしながら、本研究で用いた交流学習メモや情報交流シートを用いたことで、両校の教師が交流学習に対して、より具体的に捉えることができたことにより生じた課題であると考ええる。

また、本研究では児童双方のねらいや教師間の情報共有を図るために2種類の情報共有シートを用いて共通理解を図った。その結果、図4・図5にあるように交流学習メモや情報交流シートを活用することで、児童の情報や教師間の交流活動に関する情報について共通理解を図ることができた。その要因として、本研究で使用した交流学習メモには、当日の活動の流れ、個々の児童の目標、各グループの活動場所など、交流活動を行う上で教師が必要とする情報が1枚に集約されていることが考えられる。また、情報交流シートには児童個々の好きなものや活動、配慮事項等が具体的に記入していることから、事前指導において有効的に活用できたと考える。

しかしながら、資料作成が負担であったり、作成の時期が直前になったりと、資料の作成過程に困難がみられたことから、交流活動の実施と合わせて、資料の作成も計画的に行えるような年間計画を立てていく必要がある。また、本研究では、交流活動に関わった教師を対象としたため、評価人数が少ない。今後は本研究で用いた情報共有シートの有効性を他校との交流でも活用し、更に検討を深めていく必要がある。

謝 辞

本研究の実施にあたり、F特別支援学校小学部の先生方、A小学校の先生方に多大なるご協力を頂きました。記して感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 細谷一博 (2011) 小学校及び中学校特別支援学級における交流及び共同学習の現状と課題—函館市内の特別支援学級担任への調査を通して—。北海道教育大学紀要 (教育科学編), 62(1), 107-115.
- 2) 細谷一博・大庭重治 (2001a) 小学校特殊学級に在籍する児童を対象とした教科交流 (体育) の実施形態に関する試論。特殊教育学研究, 38(4), 21-28.
- 3) 細谷一博・大庭重治 (2001b) 交流教育の変遷と今日における実践的課題—特殊学級と通常の学級を中心に—。上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 7, 9-16.
- 4) 細谷一博・大庭重治 (2004) 肢体不自由養護学校における居住地校交流の実施方法に関する研究(その2)。第42回日本特殊教育学会発表論文集, 241.
- 5) 細谷一博・大庭重治 (2005) 肢体不自由養護学校における居住地校交流の実施方法に関する研究(その3)。第43回日本特殊教育学会発表論文集, 367.
- 6) 細谷一博・大庭重治 (2010) 居住地校交流における相互理解の促進と情報の共有化に関する事例的研究。障害者問題研究, 38 (2), 146-155.
- 7) 細谷一博・張替克美・恵羅修吉・大庭重治 (1998) 中学校特殊学級における校内交流教育の実施とその支援体制。第36回日本特殊教育学会大会論文集, 204-205.
- 8) 厚生労働省 (2006) 障害者基本法の一部改正。
- 9) 久保山茂樹 (2010) 学校における交流及び共同学習推進のための留意点—通常の学級を中心に—。特別支援教育研究, 636, 6-9.
- 10) 宮脇恭子・阿部美穂子 (2009) 交流及び共同学習の実践における教師の工夫—T市小学校教師へのアンケート調査から—。とやま特別支援教育学年報, 3, 31-39.
- 11) 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説総則編。
- 12) 寺島啓行 (2008) 交流及び共同学習における担任間の連携についての一考察—よりよい交流及び共同学習の展開を目指して—。福島県養護教育センター研究紀要, 22, 48-51.
- 13) 渡辺淳 (2010) 小学校における児童同士の相互理解が深まる交流及び共同学習の推進に関する一考察—特別支援学級担任と交流学級担任との連携の在り方を通して—。宮城県特別支援教育センター特別支援教育長期研修員報告書, 2010年度, 1-18.
- 14) 山本亜紀子・佐藤愼二 (2008) 特別支援学級に在籍する児童・生徒の交流及び共同学習に関する調査—特別支援学級担任と通常学級担任を対象として—。植草学園短期大学紀要, 9, 63-75.
- 15) 吉田恵美子・佐久間宏 (2008) 小学校における交流教育に関する研究—教員及び保護者へのアンケート調

査を通して－. 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 31, 325-332.

- 16) 全国特別支援教育推進連盟 (2007) よりよい理解のために 交流及び共同学習事例集. ジアース教育新社.

(細谷 一博 函館校准教授)

(白府 士孝 附属特別支援学校教諭)